



生まれてくれて、ありがとう

評者・長坂桂子 NTT 東日本関東病院看護部

あなたや、大切な人が生まれたときのストーリーについて聞いたことがありますか？一緒に話したことがありますか？

本書は、聖路加看護大学21世紀COEプログラム「市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点」の協力を得た「いのちの物語」プロジェクトにより企画・出版されたものです。いのちの誕生にまつわる体験エッセイを「生まれてくれて、ありがとう」をテーマに公募しました。そのなかから飾らない言葉で書かれた33編の真実のストーリーが紹介されています。

私たちは新しいいのちが生まれるとき、どの人にも特別で大切なドラマがあることは知っています。しかし、それは日常の影に隠れ、話したり、聞いたりする機会は多くないかもしれません。この本のなかには、そのかけがえのないいのちのストーリーが紹介されています。初めてわが子の産声を聞いたときの感動、友達が母になり見せた美しさ、妊娠・出産した妻への感謝、タクシーのなかでの出産、早産で生まれた小さくて強いいのち、兄弟が生まれる驚きとやきもち、素敵な助産師との出会い、など。

幸せな体験だけではありません。死産や流産を経験した悲しみ、離婚、夫との死別の苦しみ、不妊の経験といった人生のシーンも描かれています。さまざまな体験があるなか、どの人のストーリーにも共通する言葉は「生まれてくれて、あり

今生かされていることに 思いを馳せる



「いのちの物語」プロジェクト 編

定価 1,260 円本体 (1,200 + 税)

四六判／ポプラ社／2006 年

がとう」。この祈りにも似た「ありがとう」に出会うたびに、読者は追体験し、どこかなつかしさと共に自分を産んでくれたこと、今生かされていることに思いを馳せ感謝する気持ちがわいてくるでしょう。

自分や他の人のいのち、そして人生は特別で大切にすることなのだを再確認するでしょう。やさしい気持ちになり、自分の人生の意味を感じる人がいるかもしれません。それが、本書を読んだ後の心地よさにつながっているようです。こんな感情は、普段は生活のなかに埋もれて気づくことが少ないのではないのでしょうか。

お父さん、お母さんなら、お子さんが生まれたときのことを思い出し、もう一度原点に戻り子どもと向き合うきっかけになるでしょう。子どもに生まれたときのストーリーを話してあげると、子どもは大切にされている自分を実感できるはずです。保育士、養護教諭、学校の先生方、いのちの教育に役立ててください。なかで紹介されている、助産師による性教育「いのちの教室」の活動が参考になるでしょう。医療の関係者および学生の方々、患者さんの背景をより深く理解する一助となるでしょう。そして、心の目で読んでください。豊かな家族の写真と、詩にも似た優しく短い文章は、ずっと体に染み渡り、いのちをいとおしみ大切にしながら生きていく元気がわいてくるに違いありません。